

講義レジュメ

講 師 佐々木秀彦

内容・テーマ

ひろがりを求めて 多様な利用者への配慮・対応

期 日 平成27年10月8日

【基準より】

「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成23年12月20日 文部科学省告示第165号）

○利用者に対応したサービスの提供

第十条 博物館は、事業を実施するに当たっては、高齢者、障害者、乳幼児の保護者、外国人その他特に配慮を必要とする者が当該事業を円滑に利用できるよう、介助を行う者の配置による支援、館内におけるベビーカーの貸与、外国語による解説資料等の作成及び頒布その他のサービスの提供に努めるものとする。

2 博物館は、当該博物館の特性を踏まえつつ、当該博物館の実施する事業及び関連する学術研究等に対する青少年の関心と理解を深めるため、青少年向けの解説資料等の作成及び頒布その他のサービスの提供に努めるものとする。

○施設及び設備

第十五条 博物館は、次の各号に掲げる施設及び設備その他の当該博物館の目的を達成するために必要な施設及び設備を備えるよう努めるものとする。

一 耐火、耐震、防虫害、防水、防塵、防音、温度及び湿度の調節、日光の遮断又は調節、通風の調節並びに汚損、破壊及び盗難の防止その他のその所蔵する博物館資料を適切に保管するために必要な施設及び設備

二 青少年向けの音声による解説を行うことができる機器、傾斜路、点字及び外国語による表示、授乳施設その他の青少年、高齢者、障害者、乳幼児の保護者、外国人等の円滑な利用に資するために必要な施設及び設備

三 休憩施設その他の利用者が快適に観覧できるよう、利用環境を整備するために必要な施設及び設備

【話題提供】多様な利用者とオリンピック文化プログラム

1. オリンピック憲章より

根本原則第1「スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究する」

文化プログラムの重視

2. ロンドン大会の文化プログラム

(1) ロンドン大会データ

* 出典：企業メセナ協議会 web site「吉本光宏氏レクチャー「オリンピックと文化プログラについて」レポートより

■会期

Cultural Olympiad：2008年9月－（4年間）

London 2012 Festival：6月21日－9月9日（12週間）

London 2012 FestivalはCultural Olympiadのフィナーレ

Olympics：7月17日－8月12日、Paralympics：8月29日－9月9日

■テーマ・ビジョン

英国の誰もがロンドン2012に参加するチャンスを提供し、あらゆる文化に共通する創造性を、とりわけ若者たちに、喚起させること

Once in a Lifetime（一生に一度きり）

■参加アーティスト

アスリートと同じ204の国と地域から4万464名が参加

London 2012 Festivalには、2万5,000名

新進アーティスト6,160名、障がいのあるアーティスト806名

音楽、演劇、ダンス、美術、文学、映画、ファッション等

■イベント総数

17万7,717件、London 2012 Festival 33,631件

■新作委嘱

5,370作品 London 2012 Festival 2,127作品

■会場

英国全土1,000箇所以上で開催（地方小都市、町村含む）

文化施設＋歴史的建造物、公園、通り、広場、自然環境、浜辺など

会期中は郵便番号、芸術分野でイベントを検索可能

■参加者数

4,340万人（うち無料イベント：3,980万人、ロンドン以外：2,580万人）

■総予算

1億2,662万ポンド（約220億円）

拠出の内訳：組織委員会（58億円）／アーツカウンシル・イングランド（62億円）／レガシートラストUK（宝くじ基金から）（61億円）／ロンドン市（8億円）／共同資金提供者（Co-funding）（28億円）

■スポンサー

メインスポンサー：英国石油（BP）、英国テレコム（BT）

サポーター・スポンサー：BMW、ユーロスター、フレッシュフィールズ、パナソニック、サムスン

■組織体制

組織委員会、ロンドン市、アーツカウンシル・イングランド

オリンピック文化プログラム理事会 (Cultural Olympiad Board)

理事長 : Tony Hall (英国ロイヤルオペラ理事長、元 BBC)

Director (Ruth Mackenzie) 、Curator (5 名) 、Festival team (60 名) 、

Creative Programmer (全英 13 地域)

事業パートナー (600 団体・機関)

(2) ミュージアムでの取組

「Stories of the World」・・・Cultural Olympiad の 10 の主要な取組の一つ

①概要

主催 : ロンドン・オリンピック・パラリンピック組織委員会 (LOCOG) 、博物館・図書館・文書館評議会 (MLA)

規模 : 14 の地域、50 以上の機関、35 の展覧会、600 万ポンド (約 11 億円)

1,500 人以上の若者 (14 歳~24 歳)

趣旨 : コレクションの再解釈、新しい思考の反映、若者の近隣の文化資源への新たな深いかかわり

②求める効果

- ・英国の至宝は、将来、それらを目にするあらゆる人にとってより豊かな意味を獲得できる
- ・伝統的な博物館展示に新たな思考が適用される
- ・若い世代が、自分自身と近隣の遺産に対し、新たな、より深いかかわりをもつ

* 参考 : 福井千衣「ロンドンオリンピックの文化プログラム—博物館・図書館・文書館の取組み—」『カレントアウェアネス』No. 320 (2014. 6) 国立国会図書館ポータルサイト

3. 文化庁の取組

「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」 * 別紙参照

4. 東京都の取組

「都が主導する文化プログラムの基本方針について」 (第 21 回東京芸術文化評議会検討資料)

* 別紙参照